

研究プロジェクト 2023 発表会

ND

わたしらしく、誇らしく
Be Notre Dame, Be Myself

発表1

10:05-10:45

体育実技と感染症の
学習を関連づけた
実践研究

高田 佳孝 *TAKADA Yoshitaka*
現代人間学部 こども教育学科 講師

開会あいさつ
10:00-10:05
加藤 佐千子 *KATO Sachiko*
図書館情報センター長

発表2

10:45-11:20

音声表現研究を
ベースとした
話しことば教育

平野 美保 *HIRANO Miho*
国際言語文化学部 国際日本文化学科 准教授

発表3

11:20-12:00

プティジヤン版
『玫瑰花冠記録』における
東西異文化交流の
学際的研究

中里 郁子 *NAKAZATO Ikuko*
国際言語文化学部 国際日本文化学科 准教授
共同研究者… 朱 鳳 *ZHU Feng*
岩崎 れい *IWASAKI Rei*
吉田 朋子 *YOSHIDA Tomoko*

司会: 中藤 信哉 *NAKAFUJI Shinya*
図書館情報センター会議委員

日時 2023年3月2日(木)
10:00-12:00

場所 京都ノートルダム女子大学
ユーエンジニア館 3F 大講義室

参加無料 事前申し込みは不要です。どなたでも参加できます。
(途中入退室可能)後日、ネット配信も予定しています。



交通ACCESS
地下鉄丸線「北山駅」①南出口より 東へ徒歩7分
市バス4号系統「野々神町」下車すぐ。もしくは、「北園町」下車 北へ徒歩5分

問合せ 研究・情報推進課
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL.075-706-3789 FAX.075-706-3793 E-mail:kenkyu@ml.notredame.ac.jp

主催: 京都ノートルダム女子大学 図書館情報センター

<https://www.notredame.ac.jp/>

10:00-10:05

開会あいさつ 図書館情報センター長 加藤 佐千子 KATO Sachiko

■ 司会 図書館情報センター会議委員 中藤 信哉 NAKAFUJI Shinya

発表1 10:05-10:45

体育実技と感染症の学習を関連づけた実践研究

高田 佳孝

TAKADA Yoshitaka

現代人間学部 こども教育学科 講師

PROFILE●滋賀大学大学院教育学研究科学校教育専攻修了。関西大学大学院博士後期課程人間健康研究科在学中。滋賀県公立小学校教諭、短期大学講師を経て、現在京都ノートルダム女子大学現代人間学部こども教育学科講師。主たる研究領域は、体育科教育学。論文・著書は「小規模小学校における効果的な体育学習のあり方—組み合わせ単元の実践をとおして—」（『こども教育研究』8号 2022年）、「運動会指導の原理と実践」（大修館書店 2022年）など。

概要

▶ 2021年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

これまでの学習指導要領において、体育実技と保健の学習は関連づけて指導することが求められてきたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、その要請は強くなっている。実際に、保健の学習において、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を理解することが求められてもいる。しかし、そのような保健の学習と体育実技を関連づけた授業実践は停滞しており、感染症の学習と体育実技を関連づけた教材づくりについても研究が蓄積されていない。そこで本研究は、体育実技と保健の感染症に関わる学習を関連づけた実践をおこない、子どもたちが主体となって、新型コロナウイルス感染症対策を意識した三密を防ぐ学習規律やルールを構築しながら、体育実技の学習成果を深める授業のあり方について検討することにした。具体的には、感染症を予防する行動や規律を記載した学習カードの分析を通して、行動の変容を明らかにする。

発表2 10:45-11:20

音声表現研究をベースとした話しことば教育

平野 美保

HIRANO Miho

国際言語文化学部 国際日本文化学科 准教授

PROFILE●博士(教育)。名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程単位取得後退学。専門分野：コミュニケーション能力育成、教育工学。主な研究業績：『コミュニケーション能力育成 音声表現研究をベースとした話しことば教育』ナカニシヤ出版 2022年など。番組制作、司会、ナレーター、セミナー・研修講師などコミュニケーションに関わる業務に多数従事してきた。幅広い実務経験による課題意識から実践的研究に取り組んできている。

概要

▶ 2021年度学術出版助成金採択研究

本発表では、拙著『コミュニケーション能力育成 音声表現研究をベースとした話しことば教育』で著した研究成果の概要を報告する。本研究は、次の3つの内容で構成されている。①コミュニケーション能力育成のための手がかり、②音声表現スキル育成、③話しことば教育の実践についてである。①では、主に大学生の音声行動の特徴や、大学生の音声表現に関する学習におけるの社会人との相違について報告する。②では、「音声」に注目した短時間の学習から得られた研究結果、さらにそれらを基盤にしてデザインした大学での実践的研究の結果を報告する。③では、さらに、①②の研究知見をベースにデザインした国際日本文化学科の「話しことばプログラム」について、その内容や実践結果について報告する。



発表3 11:20-12:00

プティジャン版『玫瑰花冠記録』における東西異文化交流の学際的研究

代表者

中里 郁子 NAKAZATO Ikuo 国際言語文化学部 国際日本文化学科 准教授

PROFILE●神学博士(S.T.D.)。教皇庁立ローマ聖トマス・アフィナス大学神学研究科聖書神学専攻博士課程修了。専門分野：新約聖書神学。主な研究業績：The Spirit in Paul's Apology: Exegetico-Theological Study of 2 Corinthians. (2012, Pontifical University of St. Thomas Aquinas (Angelicum) 博士論文)、「『ヘブライ人への手紙』における日約の祭司職と犠牲」(2012, 京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター紀要「マラタ」第19号)、「キリスト教における托鉢の霊性について」(2020, 京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター紀要「マラタ」第27号)など。

共同研究者

■ 朱 鳳 ZHU Feng 国際言語文化学部 国際日本文化学科 教授

PROFILE●京都大学人間・環境学研究科修了、博士(人間・環境学)。専門分野：中国語学、日中近代語彙交流史。主な研究業績：『モリスンの華英・英華辞典と東西文化交流』(2009, 白帝社)、「何礼之と宣教師の交流」『寒流する東アジアの近代新語訳語』(2014, 関西大学アジア文化交流研究センター)、「漢訳西書における音訳語の継承と創造」『東アジア言語接触の研究』(2016, 関西大学東西研究所研究叢刊)、「『漢拉会話集』と『拜客訓示』」『内田慶市教授退職記念論文集—文化交渉と言語接触』(2021, 関西大学出版部)など。

■ 岩崎 れい IWASAKI Rei 国際言語文化学部 国際日本文化学科 教授

■ 吉田 朋子 YOSHIDA Tomoko 国際言語文化学部 国際日本文化学科 准教授

概要

▶ 2021年度研究一般助成・共同研究助成金採択研究

プティジャン版『玫瑰花冠記録』は、ドミニコ会士ファン・デルエダ(Juan de Rueda)が1622-23年にマニラで刊行したロザリオに関するローマ字本(Rosario no Qiroqv)を、バルナール・タデー・プティジャン(Bernard-Thadée Petitjean, 1829-1884)が明治二年(1869)に翻字し出版した書物である。

本研究では、鎖国時代を経て江戸初期と明治初期という時代を繋ぎ、また西洋と東洋を繋ぐ『玫瑰花冠記録』の特異な成立過程に注目し、この書物によってもたらされた東西異文化交流の諸相を明らかにすることを目的とし、東西語彙交流史、図書館情報学、美術史学、キリスト教神学という学際的視点から本書における東西の文化的な相互的影響について重層的に探求した。

東西語彙交流史の視点からは、『玫瑰花冠記録』にみえる漢字訳語を取り上げ、類似した漢訳西書3書と比較し、関連性とその特徴について考察する。図書館情報学の観点からは、本書の典拠本であるローマ字本を通して日本語文献の海外図書館における保存について、美術史学の視点からは、挿絵に見る東西美術の相互影響について、キリスト教神学の視点からは、本書に見るロザリオの共同体的祈りの神学を考察した。